

## 寿都の表具グループ 第1号 (1/2)

寿都の町に「表具師(ひょうぐし)」が居たという話題を聞きつけ、2020年から調査を続けていました。今回のニュースレターで、今までの調査結果を報告いたします。

寿都町磯谷に住んでいた表具師さんは外山(とやま)正一さんと言い、娘にあたる大崎正子さんに聞き取り調査と資料調査をお願いし、また表具師としての仕事が残る真言寺さんにも資料調査をお願いしました。

さて、表具師である外山さんは、1911(明治44)年10月9日生まれ、東京都台東区のご出身で、戦争で人生を翻弄されましたが、関東大震災をキッカケに丁稚奉公に入り、表具師の職人になりました。1951(昭和26)年辺りに寿都町へ来て、89歳で永眠されるまで、50年間ほど寿都町に住んでいたこととなります。その間の表具師としてのお仕事を調べてみました。

### 表具とは？

布や紙などを張ることによって仕立てられた巻物、掛軸、屏風、襖、衝立、額、画帖などを指し、表装を職業としている人を「表具師(ひょうぐし)」と言います。

表具師の主な仕事内容には、巻物、掛軸、屏風、襖、衝立、額、画帖などの修理をはじめ、襖の新調、張替、障子貼りなども含まれます。平安時代ごろ、中国から伝来した技術と伝えられ、仏画などを保護・装飾することから始まったのが表具の歴史です。

## 寿都町に残る“表具師” 外山さんのお仕事



外山さんが正子さんに製作した枕屏風



菩提院(真言寺)所蔵掛軸



手作りをした鉋や大切に使われていた道具たち

公民館の金屏風などを依頼された時は、屏風が大きく、広げて置ける場所が必要だったので、町内会館を借りて、2隻仕上げたという記憶があるそうです。茶道で使用する風炉先(ふろさき)屏風の依頼が多く、お茶の先生をされていた岩崎町の田畑乃武子先生やお弟子さんの風炉先屏風も作ったそうです。

他にも昆布温泉などに旅に出て、旅館などに泊まり込み、襖や壁紙、障子貼りなどの仕事をしたそうです。大崎さんが子どもの頃には、そのような仕事に付いて行ったこともあるそうですよ。現在、町民の皆さんが見学することができるのは、真言寺の仕事です。この5幅の掛軸の表具の仕事は、外山表具師の手によるものです。素晴らしい技術を持っていましたね。

外山さんは全ての工程を一から手で作り、屏風なども骨組みから木材に鉋(かんな)をかけて、作っていき、その鉋そのものも作品に合わせて手作りしていたそうです。大崎さんのご自宅には、お父さんが作った道具や表具の材料の数々が残されていました。大切に使っていた道具には、「外山」と焼き印が押されています。

## 知ってる？鉄道便“チッキ”

表具の紙や材料は、函館や札幌へ行き、仕入れてきたとのこと。仕入れた材料は、当時「チッキ」と呼ばれていた鉄道便で運搬を依頼し、国鉄駅から最寄りの駅(黒松内や蘭越)まで運んでもらったそうです。駅から自宅までは、磯谷にあった、運送業者の馬車で運搬してもらったそうです。

## 表具に欠かせない漆塗り秘話

お父さんは漆塗りの作業も自らの手で行っており、その作業をしている時は「かぶれる」などの理由から、絶対に仕事部屋に入ってはいけないと言われていたそうです。

温度と湿度を感覚で調整しており、その時によっては茶の間が作業場になったこともあったそうです。

## 寿都の表具グループ 第1号 (2/2)

### 外山さんが集めた表具の材料



端切れ(端切れの写真を組み合わせたもの)

掛軸の表装などに使われた端切れが今でも綺麗に保存されています。



洋金平押(工芸紙)



銀箔

綺麗に保存されていた洋金平押(工芸紙)と銀箔。正子さんはお父さんが金箔を貼る作業をしているのを見たことがあると話してくれました。札幌と函館に問屋があり、そこから金箔や銀箔を仕入れていたそうです。

お父さんは傷んでしまった掛軸などの修復の依頼を受けることも多かったそうで、その場で使われている絵の具や墨を見て、修復を依頼された掛軸などがいいものかどうか、ある程度見分けられていたそうです。

### 最後に



今回の表具師と表具調査は、「捨てておくのももったいない。端切れまで利用していた時代があること、捨てがたい想いがあることなどを伝えられれば」と大崎さんの想いを持って、表具師のお仕事について調査をしました。

あなたの身近に、外山表具師のお仕事の痕跡はありませんか?ありましたら、ぜひお宝勉強会のメンバー、勉強会事務局(教育委員会)までお知らせください。

### ～ 歴史的建造物の調査のポイントについて、勉強会メンバーで学びました ～

歴史的建造物を調査する際のポイントと手順について、株式会社KITABA 神長氏を講師に、講習会を実施しました。

#### 【講習会の概要】

日時：2022年2月7日(月)14:00～16:00

場所：寿都町総合文化センター 2階 会議室等、Zoom

歴史的建造物を調査する際のポイントと手順：

1. たたずまいをみる
2. 形状をみる
3. 素材をみる
4. 寸法をみる
5. その他(地域の歴史を調べる、地域の気候を調べる、地域の産業を調べる)

建物調査の方法について

NPO法人歴史的地域資産研究機構  
事務局 神長 敬

